

様式第2号（第5条関係）

平成 28 年 6 月 16 日

出張報告書

栗山町議会議長 鵜川和彦様

栗山町議会議員 重山雅世 

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成 28 年 5 月 18 日 ~ 平成 28 年 5 月 18 日まで
- 2 旅 行 先 東京
- 3 目 的 東京財団フォーラム参加
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成 28 年 5 月 18 日 14:30 ~ 16:30
視 察 先	東京
調査事項	第 100 回フォーラム「議会基本条例 10 年-東京財団モデルから考える」part1
対 応 者	中尾 修（東京財団研究員）江藤俊昭（山梨学院大学大学院教授） 廣瀬克哉（法政大学教授）千葉茂明（月刊ガバナンス編集長）
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 （感想、政策提言、課題など）	パネリストの報告 1:議会報告会・意見交換会の意義と課題 中尾修東京財団研究員 住民参加が当然視された 1 機関としての議会 議会報告会は誰もが参加できる、話題が限定されない 2 議会のインフラ 陳情・請願は住民の政策提言 議会と行政の違いを明確にする場として 3 議決責任 議決に至るプロセスを 4 実施要領 地域自治会、町内会との共催（住民自治） 5 課題 参加者の減少をどう考えるかー議論が白熱していない？ 開催し続けることをいかに担保するか 2:議会への市民参加（請願・陳情者の意見陳述）意義と課題 江藤俊昭大学院教授 1 住民の住民自治の根幹をなす地方議会 住民が積極的恒常的に政治と関わる 2 地方議会改革のための議会基本条例『東京財団モデル』 必須要件①議会報告会意見交換会等②請願・陳情者の意見陳述③議員間の自由討議-形式(仕組み)から成果(その中身へ) 住民の福祉向上につなげる 3 住民と歩む議会 議会報告会（情報公開『広報』から『広聴』重視へ） 参考人の活用 公聴会の活用

4 フォーラムとしての議会

議会からの政策サイクルを作り出す

傍聴者との意見交換

住民、議員、首長等の討議空間を議場で作り出す

3:議員間の自由討議

廣瀬克哉大学教授

1 討議-合議体ならではの活動

複眼的なチェック

討議を通した論点、争点の伝達と世論形成

2 世論形成と広聴

議会の議論→世論→議会の結論である

世論を踏まえるための議会の活動が広聴

世論は判断材料のひとつでなければならない

3 議決責任

説明責任が果たせないと議会無用論が出る

説明を通して納得を得ること

4 議員間討議

議会の本務 質疑は判断材料を引き出す段階

討論は賛否表明演説

議員間討議は答弁を評価して論点を明確化するために

論点相違を議論する、

4:議会基本条例 10 年を俯瞰する

千葉茂明月刊『ガバナンス』編集長

1 議会改革の新たな展開

議会事務局職員のネットワーク

議会例規の体系化

議会 IT 化

災害対応「議会 BCP」

4 年任期を見通した議会版実行計画

高校生のキャリアー教育支援

議会における「対話」の浸透

議会評価の進展

2 今後の展望と課題

議決責任の検証

議員のなり手不足の解消

地方創生・地方版総合戦略、地域づくり

議会の強みをいかに生かすか

合議制機関として総意を示せるか

地域づくりの担い手としての議員の存在感向上

考察

議会基本条例の目的に照らして、議会活動行われているか？
改めて深く考えさせられた。特に町民の声をいかに政策に結び
つけるか（広聴活動の重要性）と議員間討議、議決責任の検証
等、本町議会の今後に向けた課題がまだまだ多いと感じた。